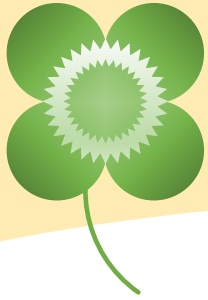


# 豊田市男女共同参画社会に関する 意識調査報告書



## 調査の目的

本調査は、「第3次とよた男女共同参画プラン（クローバープランⅢ：平成27～31年度）」の計画期間終了（平成31年度）に伴い、家庭、地域、職場などにおける男女共同参画に関する意識や男女の平等・社会参加の実態を調査したものです。本調査と過去の意識調査を比較・検証し、新プラン策定の基礎資料とすることを目的として実施しました。

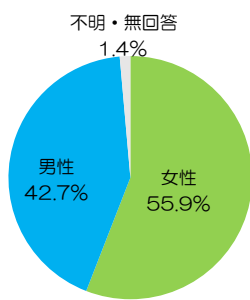
## 調査の方法

	市民アンケート	事業所アンケート
対象	豊田市在住の18歳以上の男女 各2,000人（無作為抽出）	豊田市内の 従業員数300人以下の300事業所
調査手法	郵送配布・郵送回収	郵送配布・郵送回収
調査期間	平成30年11月30日～12月18日	平成30年11月30日～12月21日
回収結果	1,268人（31.7%）	100事業所（33.3%）

※図中の%の値は、少数第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

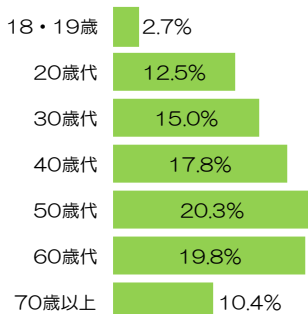
### 回答者の属性（市民アンケート）

●回答者の性別



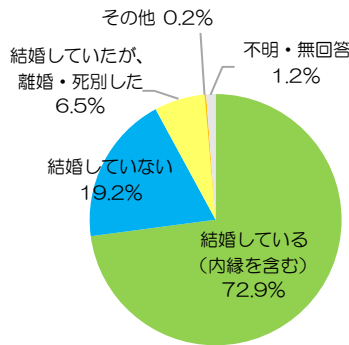
(N=1,268)

●回答者の年齢



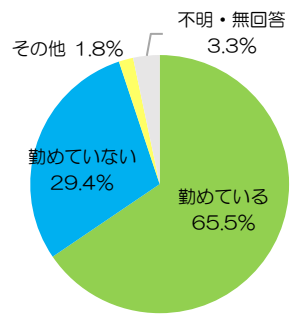
(N=1,268)

●婚姻



(N=1,268)

●就業



(N=1,268)

### 回答者の属性（事業所アンケート）

主な業種	製造業	37.0%	従業員数 (事業所)	50人以下	45.0%	女性従業員 比率	2割未満	32.0%
	建設業	15.0%		51～100人	28.0%		2～4割未満	30.0%
	サービス業	11.0%		100人以上	26.0%		4割以上	36.0%
	卸売・小売業	10.0%						

# 1

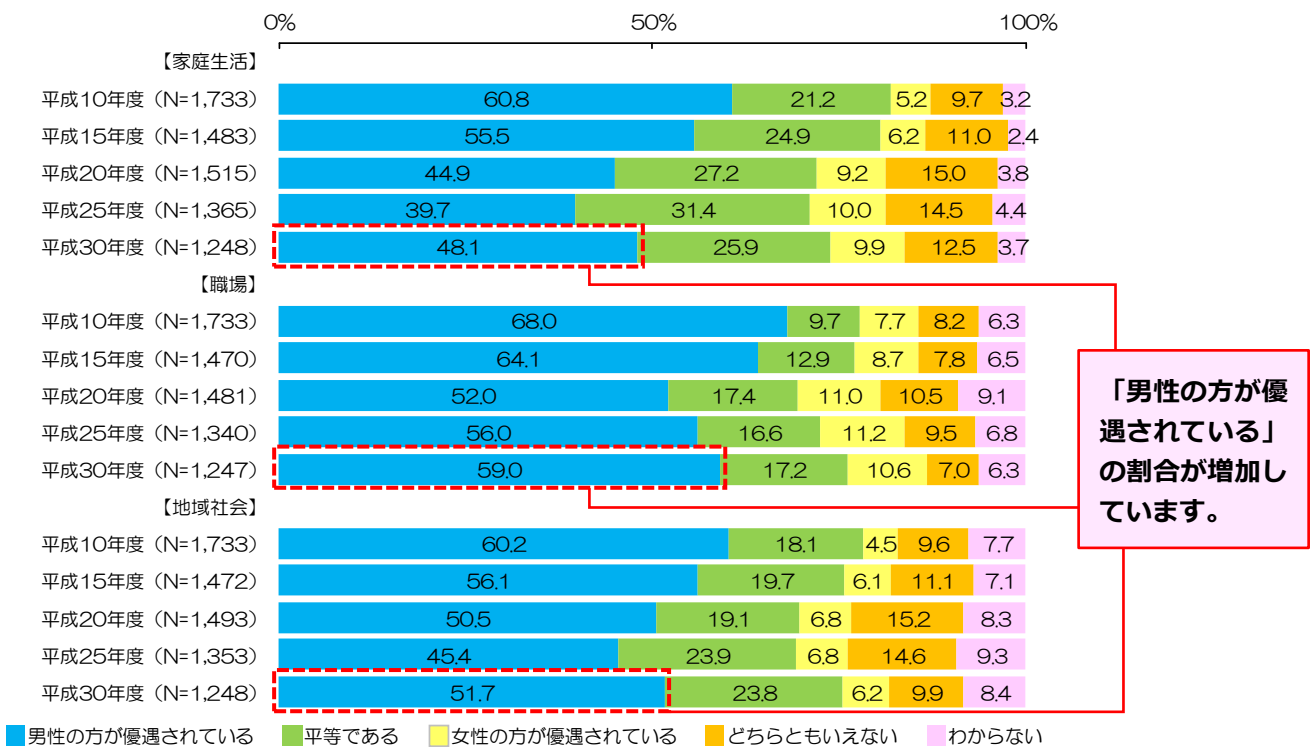
## 男女の平等観と実態

### 1

#### 家庭、職場、地域における男女の平等観

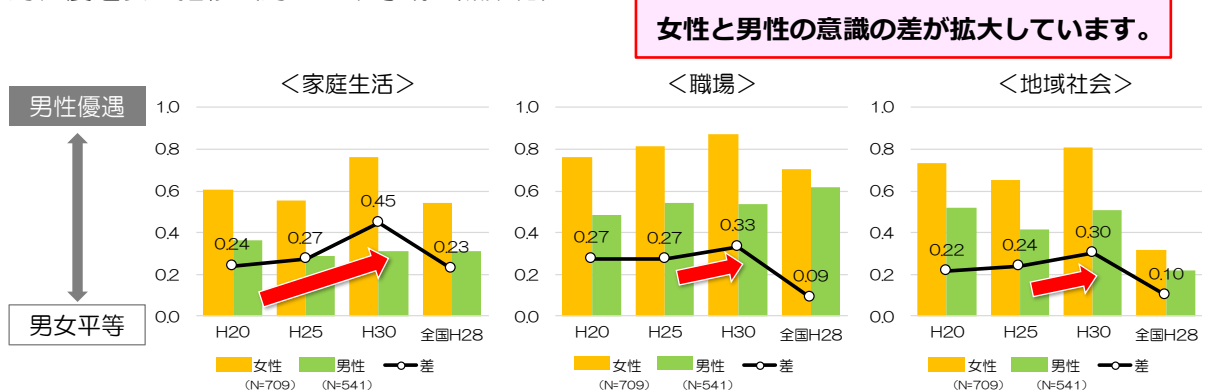
家庭生活、職場、地域社会における、男女の平等観について経年で比較すると、前回調査までは、「家庭生活」、「地域社会」について「平等である」との回答の割合が高まる傾向にありましたが、今回の調査では、「男性の方が優遇されている」との回答が、「家庭生活」では8.4ポイント、「職場」では3.0ポイント、「地域社会」では6.3ポイントといずれも増加しています。これを男女別にみると、男性の意識にあまり変化がない一方で、女性は男性が優遇されていると感じている人が増えてきており、男女間での意識の差が広がっています。

#### ● 家庭生活、職場、地域社会における男女の平等観（経年比較）



※「男性の方が優遇されている」とは、「男性の方が優遇されている」「男性の方がやや優遇されている」と回答した人の合計  
 「女性の方が優遇されている」とは、「女性の方が優遇されている」「女性の方がやや優遇されている」と回答した人の合計

#### ● 男性優遇度の推移（男女の平等観を点数化）



※各選択肢を点数化し、加重平均を算出したもの。点数は「男性の方が優遇されている」2点、「男性の方がやや優遇されている」1点、「平等である」0点、「女性の方がやや優遇されている」-1点、「女性の方が優遇されている」-2点。0点に近いほど男女平等。  
 ※全国…平成28年度男女共同参画に関する世論調査（内閣府）

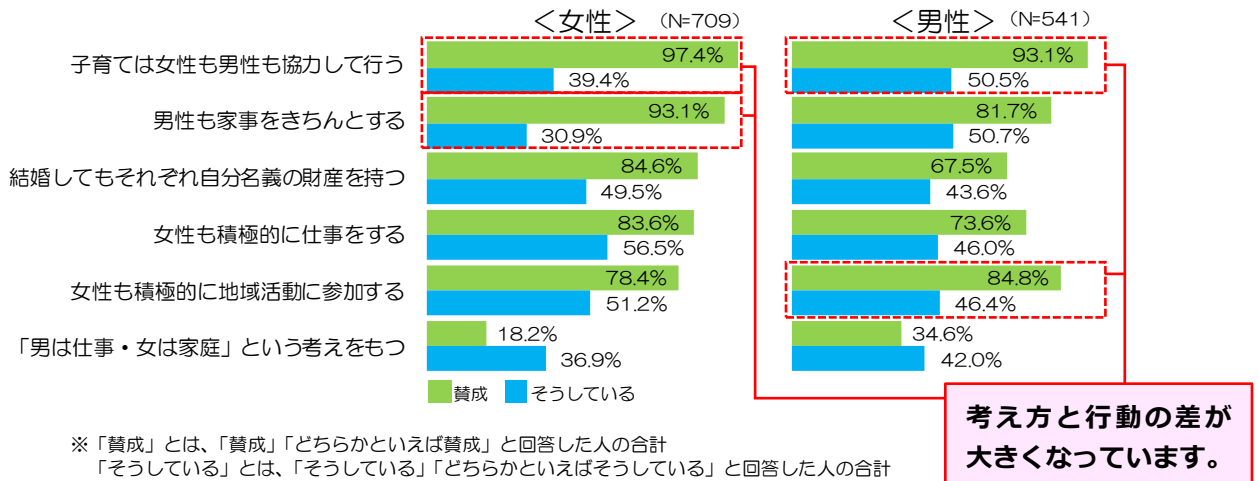
## 2

### 男女の役割分担についての考え方と行動

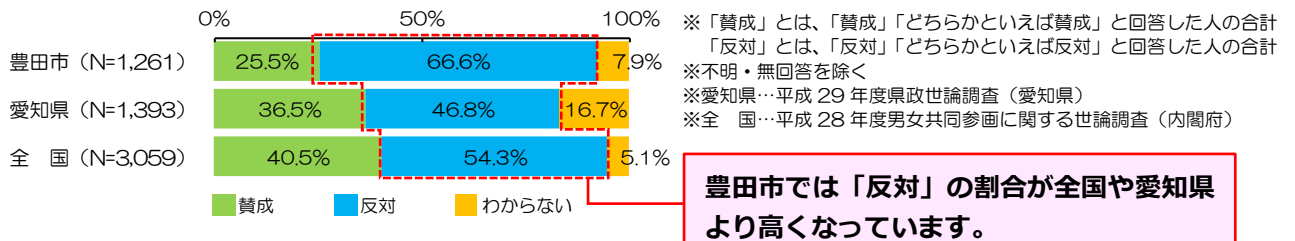
男女の関わり方に関する考え方と行動を男女別で見ると、「子育ては女性も男性も協力して行う」について、「賛成」が男女ともに9割を超え最も多くなっています。そのほか、女性では「男性も家事をきちんとする」が93.1%、「結婚してもそれぞれ自分名義の財産を持つ」が84.6%、男性では「女性も積極的に地域活動に参加する」が84.8%、「男性も家事をきちんとする」が81.7%と多くなっています。また、考え方と行動の差が大きい項目を見ると、女性では「男性の家事」「子育ての男女の協力」の順に、男性では「子育ての男女の協力」「女性の地域活動」の順に、差があるという結果となっています。

また、全国、愛知県と比較すると、豊田市では「男は仕事・女は家庭」という考え方に「反対」である割合が高く、男女共同参画に関する意識は高い状況であると言えます。

#### ● 男女の関わりに関する考え方と行動



#### ● 「男は仕事・女は家庭」についての考え方

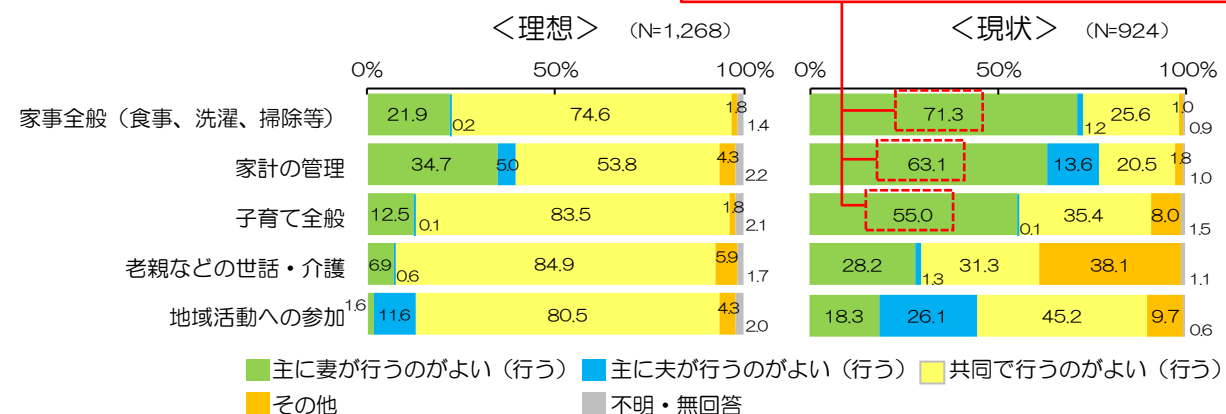


## 3

### 家庭における夫婦の役割分担

夫婦の役割分担の理想と現状について、「理想」では全ての項目で、「共同で行うのがよい」という回答が最も多くなっていますが、「現状」では、「共同で行う」との回答は全ての項目で減少し、特に家事や家計の管理、子育てでは「主に妻が行う」という回答が多く、妻の負担が大きい状況になっています。

#### ● 家庭における夫婦の役割分担について



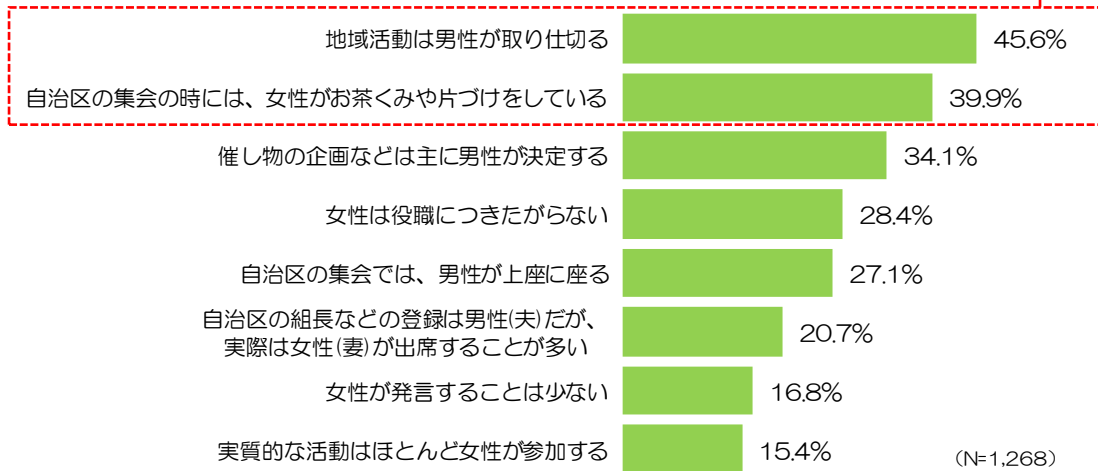
## 4

## 地域活動における男女の役割分担

地域活動における男女の役割分担について「そうしている」との回答は、「地域活動は男性が取り仕切る」が 45.6%、「自治区の集会の時には、女性がお茶くみや片づけをしている」が 39.9%となっており、固定的な性別役割分担が残っている状況です。

## ● 地域活動の現状（「そうしている」の割合）

固定的な性別役割分担が残っています。

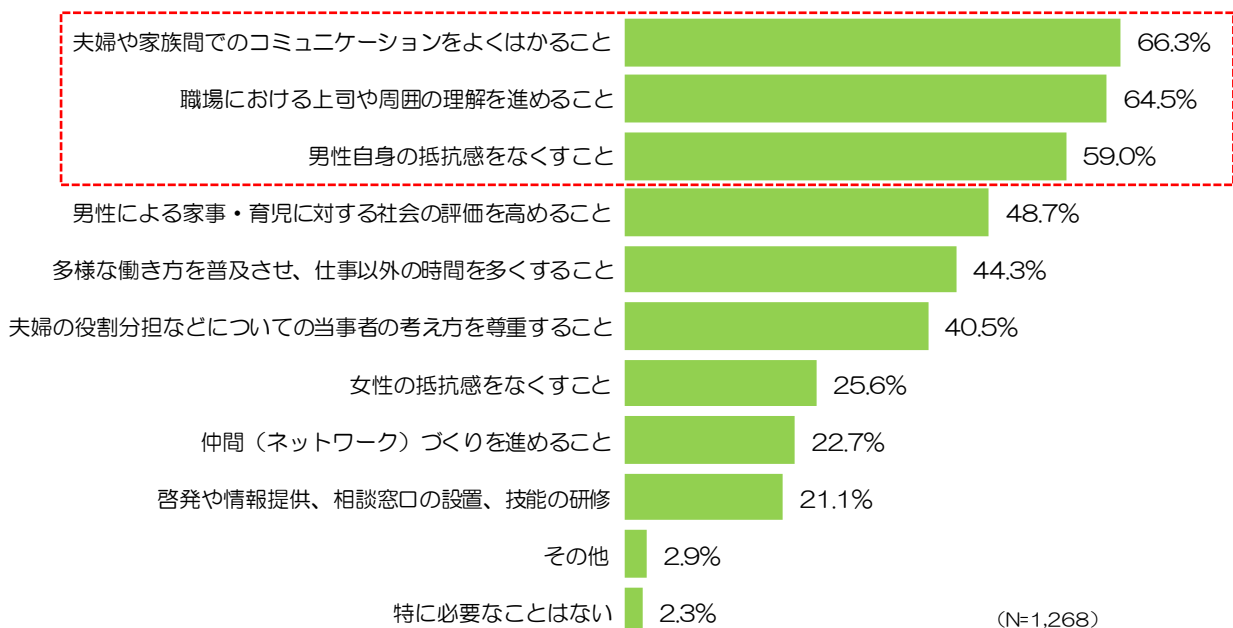


## 5

## 男性が家事や子育て、地域活動等に積極的に参加するために

家事や子育て、地域活動などへの男性の積極的な参加のために必要なことについて、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が 66.3%、「職場における上司や周囲の理解を進めること」が 64.5%、「男性自身の抵抗感をなくすこと」が 59.0%と多くなっています。

## ● 男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なこと（複数回答）



# 2

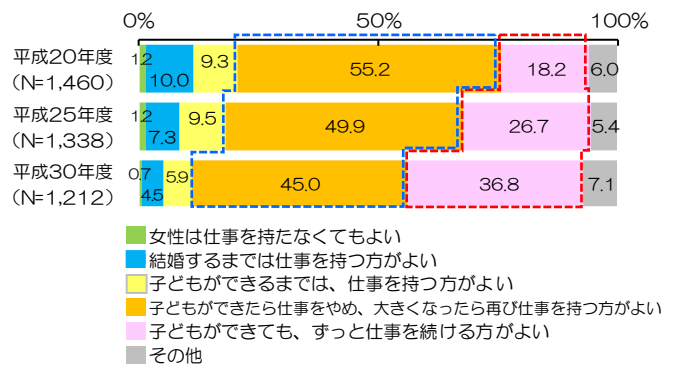
## 職場における男女平等、ワーク・ライフ・バランス

### 1

#### 女性が仕事を持つことへの考え

女性が仕事を持つことへの考えについては、「子どもができれば仕事をやめ、大きくなったら再び仕事を持つ方がよい」への回答が最も多いものの、その割合は低下しつつあります。代わりに「子どもができて、ずっと働き続ける方がよい」という回答が前回調査から約 10 ポイント増えており、継続して働くことを望む意識が高まっています。

#### ●女性が仕事を持つことについての考え

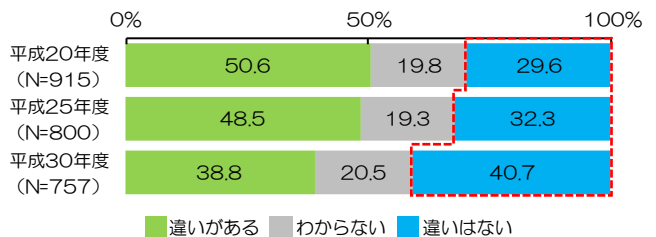


### 2

#### 男女の待遇や仕事の違い

職場での男女による待遇や仕事の違いについては、「違いはない」が前回調査から 8.4 ポイント増の約 4 割となっており、男女平等な職場環境に改善されてきていることがわかります。

#### ●性別による職場での違いの有無



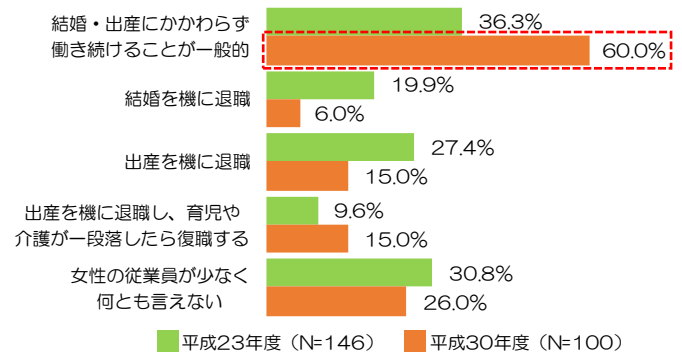
### 3

#### 事業所における状況

#### 事業所における女性の就労の傾向

事業所における女性従業員の就労の傾向については、「結婚・出産にかかわらず働き続けることが一般的」との回答が 6 割を占め、前回調査よりも大きく増加しています。

#### ●事業所における女性従業員の就労の傾向（2つ回答）

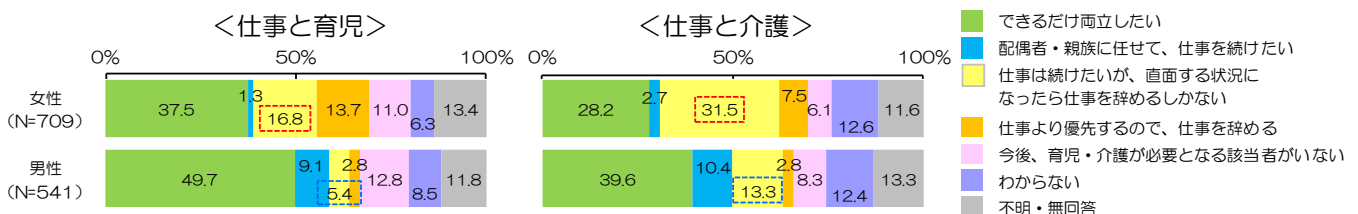


### 4

#### 仕事と育児・介護の両立についての考え

仕事と育児・介護の両立についての考えは、「できるだけ両立したい」という割合が男女ともに高いですが、女性は男性よりもその割合は低く、かつ「仕事は続けたいが、直面する状況になったら仕事を辞めるしかない」が男性よりも高くなっています。特に介護ではその傾向が強いです。男性も育児より介護に直面した時の方が仕事を辞めるしかないとする割合が高くなっています。

#### ●仕事と育児・介護の両立の考え



# 5

## 事業所における状況

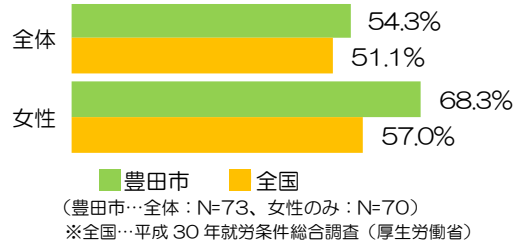
### 有給休暇、育児・介護休業の取得

年次有給休暇取得率は、全体で 54.3%、うち女性で 68.3%となっており、ともに全国平均を上回っています。

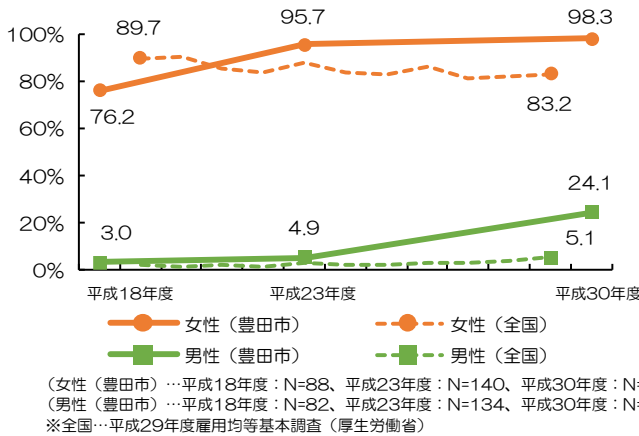
育児休業取得率は、女性は 98.3%とほぼ全員が取得し、男性は 24.1%と近年増加しています。介護休業の取得についても、人数は少ないものの前回調査から増加しています。

休暇等の取得状況は望ましい方向に進んでいると言えます。

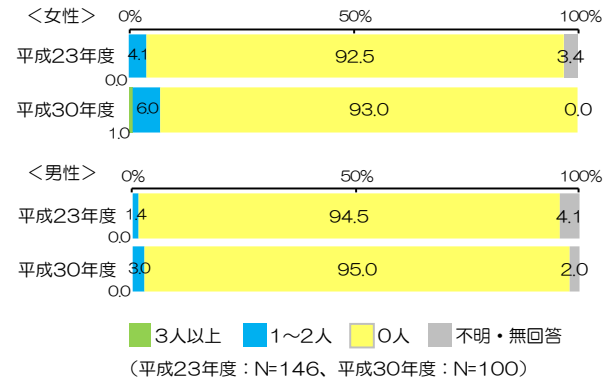
#### ● 年次有給休暇取得率



#### ● 育児休業取得率



#### ● 介護休業取得者数



# 6

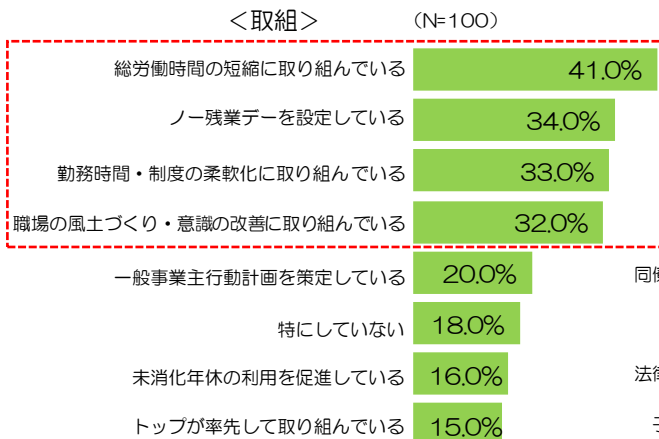
## 事業所における状況

### ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組と課題

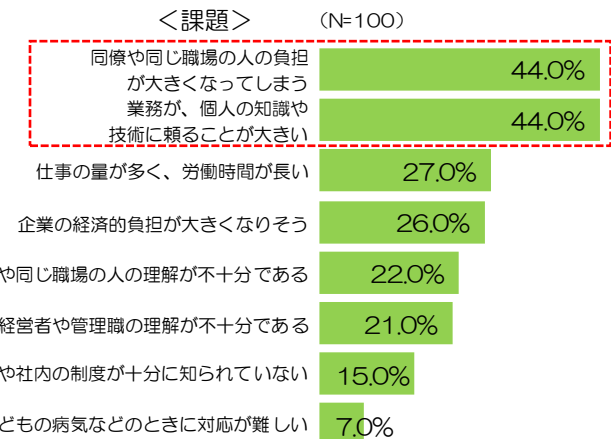
事業所のワーク・ライフ・バランスの推進に向けた取組としては、「総労働時間の短縮」「ノー残業デーを設定」「勤務時間・制度の柔軟化」などの長時間労働の是正や「職場の風土づくり・意識の改善」がよく取り組まれています。

一方で、課題としては、「同僚や同じ職場の人の負担が大きくなってしまう」「業務が、個人の知識や技術に頼ることが大きい」など業務の分担や割り振りへの回答が多くなっています。

#### ● ワーク・ライフ・バランス推進のための取組 (複数回答)



#### ● ワーク・ライフ・バランス支援を進める上での課題 (複数回答)



# 3

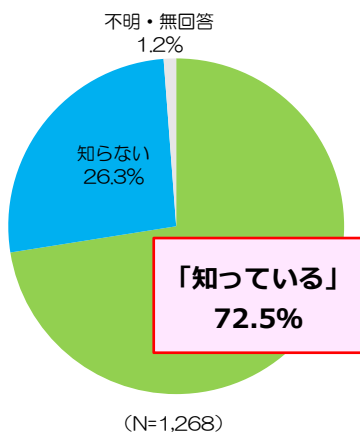
## 性的マイノリティ（LGBT）

近年、LGBTといった性の多様性が認められる社会への意識が高まっています。豊田市でも、今回初めてLGBTに関する市民意識を調査しました。

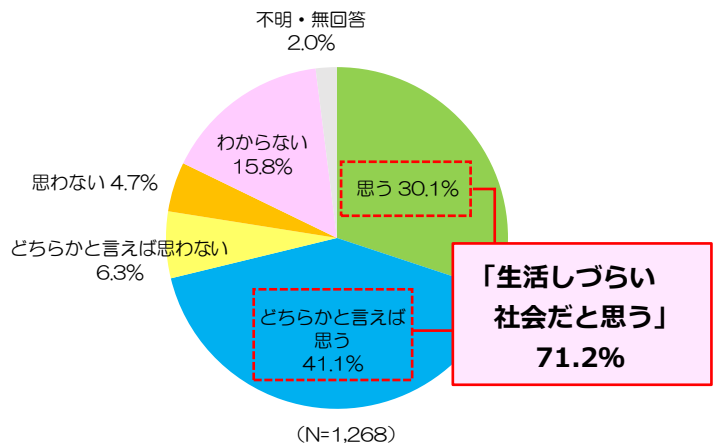
性的マイノリティ（LGBT）という言葉については、7割以上が「知っている」と回答し、高い認知度を示しています。また、今の社会が、性的マイノリティ（LGBT）の方々が偏見や差別などで生活しづらい社会だと思う割合（「思う」「どちらかと言えば思う」と回答した人の合計）も7割以上と高い割合を示しています。

性的マイノリティ（LGBT）の方々が生活しやすくなる対策としては、「市民や企業に対する周知啓発を行う」が52.0%、「相談窓口を充実させ、その存在を周知する」が40.0%となっており、理解の促進と相談の対応が求められています。

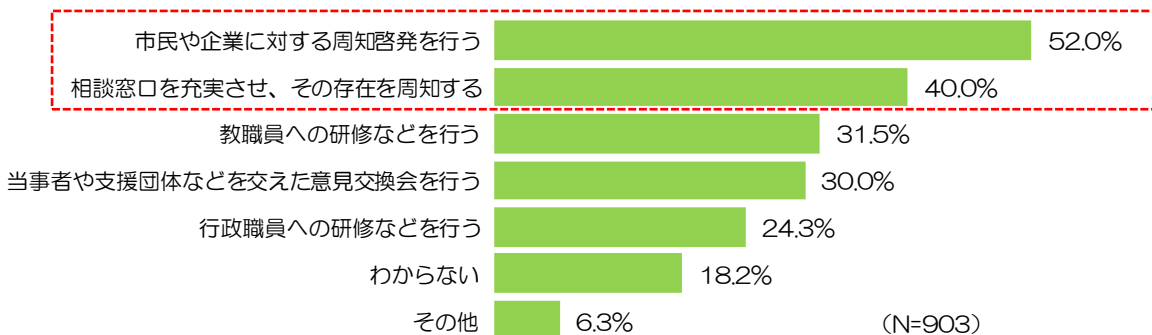
### ●性的マイノリティ（LGBT）という言葉の認知



### ●性的マイノリティ（LGBT）の方々が偏見や差別などで生活しづらい社会だと思うか



### ●性的マイノリティ（LGBT）の方々が生活しやすくなるためには（複数回答）



#### <性的マイノリティ（LGBT）とは>

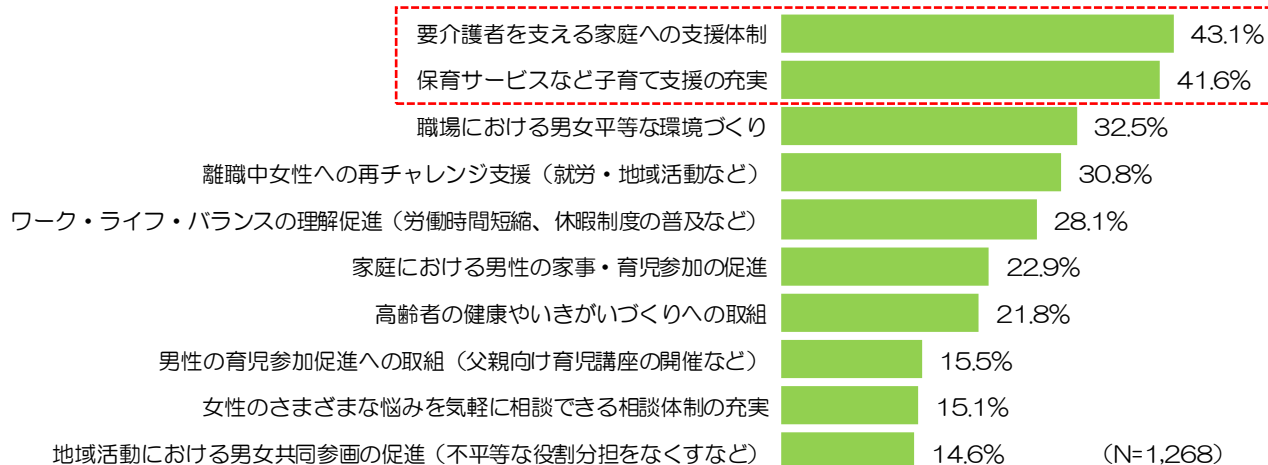
同性が好きな人や、自分の性に違和感を覚える人、または性同一性障がいなどの人々のこと。性的少数者ともいいます。LGBTはレズビアン（女性同性愛者）・ゲイ（男性同性愛者）・バイセクシュアル（両性愛者）・トランスジェンダー（心とからだの性が一致しない人）の頭文字をとった言葉です。

## 4

## 男女共同参画社会の実現に向けて重要と思う市の取組

豊田市の男女共同参画社会の実現に向けて重要と思う取組としては、「要介護者を支える家庭への支援体制」「保育サービスなど子育て支援の充実」への回答が多く、介護や子育てへの支援に関するニーズが高くなっています。

## ●男女共同参画社会の実現に向けて重要と思う市の取組（5つ回答）



## 意識調査結果からわかる豊田市の現状

- 家庭生活、職場、地域社会における男女の平等観では、前回調査（平成25年度）と比べ「男性の方が優遇されている」という回答が多くなっています。「男は仕事・女は家庭」という考え方に反対である市民の割合は、全国と比較して高くなっています。一方、男女の関わりに関する考え方と行動にはギャップがあります。
- 女性の働き方については、仕事への積極性や継続した就労への意識が高くなるとともに、職場での待遇や仕事の内容の男女差は小さくなっており、働く場の環境は改善されつつあります。しかし、仕事と育児・介護との両立に直面した場合には、女性の方が離職を選択する傾向が見られます。
- 偏見や差別などで性的マイノリティ（LGBT）の方々にとって生活しづらい社会だと思う人が多くいます。

